

5/7

II-206

乳児保育-人間関係学的接近-

〈お茶の水女子大学〉 黒田 淑子

研究目的

人間の生活・活動を媒介に、乳児における人間関係の発展について論じ、乳児の創造活動の進め方(技法)の可能性を開発する。

研究方法

本研究者が主体的に参加することのできた乳児との創造活動を基として(親として、参加観察者として、リporterとして、他)、理論即実践の立場で、乳児における人間関係が発展していくプロセス(多美)をとらえ、関係発達のあり方について論じる。また、個々の具体的活動における保育者の役割の果たし方を意識化し、乳児にかかわる人が、乳児との新しい出会いにおいて、新しく活用し得る技法として、明らかにする。

乳児における人間関係の発展

乳児は社会的存在、関係的存在として生活・活動している。その誕生とともに、人間として新しく生きはじめるときの諸活動には、人間存在のしかた、人間関係の発展に開く根源的事実が展開していきとせられる。いくつもの基本的な活動例を挙げる。

- 誕生(出産)活動における子、母、看護者、医者^{*}の存在存在
社会関係発達の状況、社会的役割関係が成立していき状況において、各個がそれぞれ関係責任、役割責任を主体的に果たしあひ、人間誕生という共通目標に向かい、ともに活動している。
- 母と子が、同じ場所において、人間世界、人間生活状況も共有する。
自己と人と物との根源的、基盤的存在存在状況に、人と人、乳児と母とがともにいて、新しい人間活動のはいまり 得持している。
- 人間活動の基盤となる子関係(自己、人、物関係、

人間関係が成立していき状況で、母と乳児とが相対的に相互して自己活動を展開する。

人間関係の連続的発展していくプロセスの段階として重要な意味をもつ。

- 看護者と母と乳児との関係が発展する。
例として、看護者が乳児を抱き、ベッドに寝ている乳児みよる位置にいて、哺乳をしなが、母と話し合ふなど、看護者が媒介となつて、母と子との出会いを促す子、また乳児を媒介に看護者と母との関係が発展するよりの活動である人間関係の発展を促進する動き、媒介者の存在する関係の展開、技能的役割分化をとらえとらえていく。
- 母と乳児が出会い、ともに係まかけあひながら活動する。
身体接触(抱く)、哺乳などの生きた活動を繰り返し重ねていくことにより、人間関係、母子関係が具体的に形成され、発展していく。
- 母と子、乳児と母が出会い、集団体験の基礎となる体験をする。(例として、病室・産科において、母子は、それが月経の会場にいて)開かれた家庭、関係交差保育、家庭保育と集団保育の存在存在というあり方につながるといえる。
- 父と母と乳児とが出会い、ともに係まかけあひながら活動する。
父が主体的に親子の活動に参加することにより、父母子の関係を発展し、それを基盤として、母子関係、父子関係、夫婦(父母)関係が発展していく。父的役割、母的役割は、性差に規定された固有のものである。具体的な活動において、関係の発展に必要と役割をとりあふことにより、個性的な父的役割、母的役割が形成されていく。父的役割、母的役割を交代し、新しい役割の果たし方の可能性をたもたせていくことが可能である。
- 世代交差状況において、祖父母と親と孫(乳児)との人間関係が発展する。
祖父母にとり、乳児にとり、乳児にとり、人間関係の存在が拡大し、人間として生き

子可能性が広がる。

乳母との創造活動の進め方 (とや)

～人間関係の素地を基盤として

本研究においては、乳母(とや)と乳児(人・物)との出会い、人間として至るべき基本的な関係が形成される初期段階(0～6か月頃)をとりあげます。

保育者の役割の果たし方としては、次がより重要である。物(自然、風景、おもちゃ、生活道具など)を媒介に乳母と保育者と物との存在状態をつくり出すこと、人間としての乳母と出会い、傷まかせない姿勢で、乳母のあけと持物を介して(手かき、身体接触、身体表現、音声・音響表現)をくみあわせて、行なうこと、その他。

(注)乳母のあけする基本的持物。(0～6ヶ月、持て人間関係の成立、人間関係の重要なと思われる持物)

- ・呼吸する、哺乳、飲む、排泄する、みる
- ・きく、ふれる(接触する)
- ・眠る、有持物として機能する、心が動く
- ・声を発す、表情が豊か化する、身体を動かす
- ・手を動かす(→手を操作する)

1 舞台づくりの技法(I)

乳母が人間として生きていく舞台をつくる。乳母が安全に暮らす、また自発的な身体運動をしやすいバッドとバッドに相当するものを用意する。バッドを置く場合、人と乳母との安全な位置、向きをみる。みる活動は大きく活動を活発にする物(トマリ、千羽鶴、絵など)を配置する。例として、背の低い女よりとする乳母の動きをとり、壁の絵を添え、乳母のみやすい位置にかけるとなど、乳母の活動がはじまること、新しく舞台の条件を整えることが重要である。

2. 身体接触の技法(I), 風と木と空の技法
保育者が乳母を抱いて、歩ませる。ともに自然と遊ぶ。乳母は、抱かれないまま

勢で腕の動きを成し、空を背景に木と空の間に目をうつす。抱かれない乳母が、保育者の衣服を自分に向け、あそび、自分で首を動かす。あそびとする段階、あそびの間、待機化状況、抱きあう動きに相当する活動、身体接触活動の可能性が広がるか、時期がある。

- 「エラエラエラ」の技法、「キツコバツツ」の技法、その他
- 3. 朝の出会いの技法、「花と影」の技法、保育者と乳母と朝の状況を表すに作る。花と影の動きをみる。
- 4. 「動物トマリ」の技法、保育者が動物トマリを操作して、乳母の動き、速く活動(人、物、人との関係)を体験する。
- 5. 「箱のふたの絵」の技法、「うた」の技法(I)生活道具をいかに、手つくりのあそびをつくる。例として、動物トマリが描かれた「箱のふたの絵」を保育者がゆりゆり動かす。うたをいかに、乳母に傷まかせず。乳母はいつと、み、まじし、この段階では、保育者と乳母の「アアア」と声をたすようにする。
- 6. 「空と赤い傘」の技法
- 7. 「お話」の技法(I)
- 8. 「うた」の技法(II)
- 9. 「誕生カマ」の技法
- 10. 「ヒール靴」の技法(人への関わり、自身をすのけのまじり(おもちゃ))
- 11. 「うすまき型がらぎ」の技法(I)
- 12. 「セアレヒ」の技法(I)
- 13. 「手と手のダンス」の技法
- 14. 「あまあがり」の技法(I)(II)
- その他。

* 参考文献
「関係学研究」編纂委員会編
関係学研究、第1巻(1号、2号、3号)
(シンポ、41、73、74)